

設置検討協議会(第4回)での主な意見

I 施設整備について

- 大スタジオとレッスン室1・2のほかに、小部屋として1～3室程度の部屋を、必要なものとして示すべき
趣旨は、生徒たちが自由な発想できる空間が必要ということ
 - ・用途としては、個別レッスン、リーディング(本読み)等を想定
 - ・大きさは8畳から10畳/部屋程度
 - ・整備の手法として
 - レッスン室1、2を2ないし3分割できるようにする。
 - 既存の普通教室を、4分割できるようにする。
 - 普通教室を防音にしておいて使えるようにする。 等
- 大スタジオに、スクリーン、プロジェクタ等を整備
大スタジオ、レッスン室について、映像に対する配慮が必要
 - ・壁への直接投影、背面からの投影等、多様な形態について、対象校確定後に検討
- 大スタジオの客席について、ロールバック式とは限定せず、可動式あるいは移動式の客席とする。
 - ・平台、あるいはスチール製のモジュールなどを想定

II 指導者の確保について

- 演劇の社会的な広がりということの視点は持つべき。
 - ・ 演劇的要素を取り入れた職業の方を授業に取り込むことによって、この学科の幅を広げるということを特徴として、アピールすべき。
- よい講師を継続的に確保していくことが重要なポイント
- 一つの劇団など限られた団体等からだけの専門家によるのではなく、色々な方、色々な考え方の人に教えていただきたい。
- (舞台芸術の)現場の一線の方では、自身の公演等によってスケジュールの変更が生じる(=長期間スケジュールを確保することができない)ことが課題
- 演劇的な素養を持って広く全般を見渡せる教員が必要
- 一般の教員も芸術的、文化的な素養を高める側面を一般の授業でも取り入れるべき。
 - ・ この視点での教員研修が必要
- モラルある人間であることが最低限必要
- よい講師をお願いするには、開講の2、3年前からアプローチすることが必要
- 一つの講座を通年一人が受け持つのではなくて、ハイブリッド的に講師が交代しながら実施していくことも一法
- 若い演劇人を講師とすることも考えられる。
若い演劇人にとっても勉強になるので、そういった人たちを応援することにもなる。
- 神奈川県出身者や関係団体(劇団、大学等)とネットワークを組んで人材を見つけていくようにできるとよい。
- 講師を集めるにあたってある種の方向性(基本コンセプト)が必要